

キに対して、剤型、散布量のいかんを問わず著好を示しており、またササに対しては、各区とも新発生のものについては生長点の枯死を認め、その後下部に移行して落葉することを観察した。

以上のように宿根性雑草に対するフレノックの効果は、かなり認められているが、秋処理の試験が継続中であること、および茶に対する影響がまだ明らかにされていないことから、継続検討することとした。

Ⅱ 生育調節剤

1. IBA（オキシベロン）

オキシベロンについては、茶のさし木での発根促進効果が認められているが、前年度からは定植苗の発根、生育促進に対する葉面散布の効果も検討している。本年は品種（2～3）、濃度（100、200ppm）、散布回数（1,2回）の3要因を取り、定植直後、2回散布の場合にはさらに1週間後に幼茶樹に散布して、発根、生育状態を調査した。

定植60日、120日後の調査結果から、茶業試験場では根の発育、地上部の生長ともに100ppm散布がややすぐれたが、散布回数との関係については一定の傾向がみられず、宮崎県総合農業試験場でも供試したやぶきた、やま

なみ両品種ともに、120日後の調査では無処理区を上回る効果は認められなかった。しかし、奈良県農業試験場のポット試験では、処理区のほうが発根量が多く、ほ場試験でも60日後の調査では、100ppmの1～2回散布区で、地上部、地下部の生長が有意差を示し、植え付け初期の発根に有効であることを示した。

以上3場所の試験結果を総合考察した結果、一部で効果が認められたものの、葉面散布による方法では、実用段階に持ち込むことは困難であろうと判断された。したがって、さらに試験を継続するとすれば、定植前の根に対する散布、定植後の土壌かん注、あるいは根の発育のおう盛な秋季の処理など、別の方法をとるべきであろうと結論された。

2. OEDグリーン

担当場所 静岡県茶業試験場、岐阜県農業試験場

茶の寒干害を防止するため、静岡、岐阜県下の寒冷山間地茶園において、12月中旬および1月中旬の2回にわたり、OEDグリーンの20倍液を150ℓ/10a茶葉に散布し、その防止効果を検討中であるが、成績検討の段階に至っていないので、この点は別の機会にゆずることとした。

昭和46年度林地関係除草剤

試験成績概要

農林省林業試験場除草剤研究室長 真部辰夫

検討会は昭和47年2月10日、日本植物調節剤研究協会会議室で行なわれた。供試除草剤

および検討結果は次表のとおりである。

昭和46年度林地関係除草剤試験成績審査判定表

薬 剤 名	対 象	作 業	判定	試験場所	備 考	委託者名
D C - 5 5 (ベスタック)	ヒノキ, アカマツ スギ, ヒノキ	まきつけ まきつけ	実 実	鳥取林試 愛媛林試	昨年からの継続	大日本インキ化学工業
M O - 5 0 0	ヒノキ	まきつけ	実	鳥取林試 愛媛林試	昨年からの継続	三井東圧化学工業
NTN-5006 〔アミプロホス〕 〔トクノール〕	スギ スギ, ヒノキ スギ, ヒノキ, アカマツ	まきつけ, 床がえ まきつけ, 床がえ まきつけ, 床がえ	実 実 実	埼玉林試 静岡林試 広島林試	 アカマツは継続	日本特殊農薬製造
M&B-9057 〔アシュラム〕 〔アージラン〕	スギ, ヒノキ スギ, ヒノキ アカマツ, ヒノキ	床がえ 〃 〃	継	埼玉林試 愛媛林試 鳥取林試		塩野義製薬

1. DC-55

45年度の試験において、スギ、ヒノキ、アカマツのまきつけ床、床がえ床ともメヒシバの優占地ではきわめて良好な除草効果を示したため、イネ科雑草優占苗畑では充分使用が可能ではないかと考えられたが、1か所、1回限りの試験であるため継続となっていたものである。

46年度は2試験場で行なわれたが、メヒシバには卓効がみられ薬害はみられなかった。一部広葉雑草には抵抗性のあるものもみられるが、林業苗畑はメヒシバ優占地が多いため充分使用できるので、スギ、ヒノキ、アカマツの床がえ、まきつけとも実用化が認められた。基準散布量はa当たり100~200cc(製品)である。

2. MO-500

45年度の試験においてスギ、アカマツの床がえ、まきつけ、ヒノキの床がえについて実用化が認められているが、一部ヒノキのまきつけ床においては、生育初期に頂芽に僅かな微候が

みられた。この場合、枯死するものではなく生育が進むにつれて回復したのであるが、一応再検討することで継続になっていた。

46年度は鳥取林試と45年薬害がみられた愛媛県林業試験場で試験を行なった結果、いずれも薬害がみられず実用化が認められた。愛媛県林業試験場においてはこの受託試験以外にかなりの面積において同時に試験を行なったが、同じく薬害はみられなかった。除草効果については、45年同様、イネ科雑草に顕著な効果がみられた。

これによって、スギ、ヒノキ、アカマツの床がえ、まきつけとも実用化が認められたわけで基準散布量はa当たり20~30cc(製品)である。

3. NTN-5006

林業苗畑では新規の除草剤である。除草効果はイネ科>広葉の傾向がみられるものの幅広い作用性をもっており、薬害はみられず優秀な除草剤であることが認められた。実用化について

は広島県林業試験場で行なったアカマツについても除草効果は良好な成績で、薬害はみられなかったが、1か所の試験であるため、アカマツのみ継続とし、スギ、ヒノキの床がえ、まきつけについて実用化が認められた。基準散布量は床がえはa当たり400~500cc、まきつけ200~300cc(いずれも製品)である。

4. M&B-9057

林業苗畑では新規の除草剤である。除草効果は指定された散布量では従来使用してきた既登録薬剤に比べ、若干弱いという意見があり、また枯死するものはなかったがアカマツに薬害がみられたので(スギ、ヒノキにはみられない)、散布量を増加した場合と薬害の検討が必要とみられ継続となった。

昭和46年度ミカン関係除草剤・生育調節剤試験成績概要

農林省園芸試験場興津支場果樹第2研究室長 広瀬和栄

昭和46年度ミカン関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、昭和47年1月28日、農林省農業総合研究所(東京)において開催されたので、その審査結果につき説明する。

昭和46年度に供試されたミカン園用除草剤は17種類であり、これに対する判定は第1表に示す通りである。これらのうち、実用化もしくは実用化とともに一部継続に移された薬剤は6薬剤であり、その使用基準については第2表に掲げた。

I 除 草 剤

＜第1表＞昭和46年度ミカン関係供試除草剤審査判定表

薬 剤 名	剤型	有効成分及び含有率	委託メーカー	46年度判定	備 考
1. KC-2	乳	未 公 開	クミアイ化学工業	継	降雨の影響、草量との関係を明らかにする
〔薬害試験〕	同上	同 上	同 上	実・継	
2. サイプロミッド 〔S-6000 (clobber)サイプロミッド〕	乳	3', 4'-ジクロロミクロプロパンカルボキシアニリド 20%	サイプロミッド普及会(東陽通商, 日本曹達)	実・継	
3. DCPA, NAC 〔プロパニール+カーバリル ワイダック〕	水和	〔DCPA〕3,4-ジクロロプロピオンアニリド 〔NAC〕1-ナフチル-N-メチルカーバメート (DCPA 50.0%, NAC 10.0%)	ワイダック普及会〔保土谷化学〕, クミアイ化学工業 大日本除虫菊 北興化学工業 三笠化学工業 長瀬産業	継	